

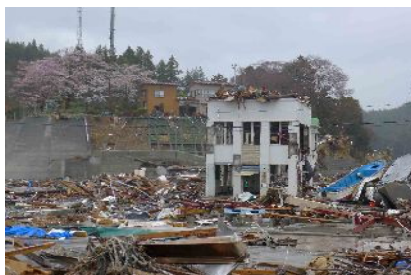
東日本大震災医療支援に島津病院から医師派遣

当院の伊東医師が平成23年4月22日から4月30日まで、3月11日の津波で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町・登米市に医療支援に行ってきました。4月21日高知空港から羽田空港に行き、栃木県に泊まり、翌4月22日に車で現地入りし、4月30日に支援を終え現地を離れました。

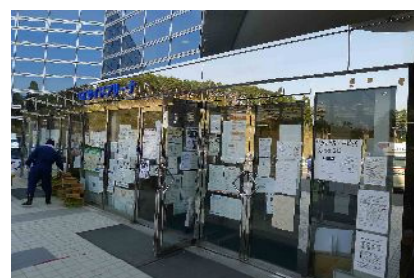
実際の診療のみならず、多くの医療チームをまとめる南三陸町医療統括本部のスタッフの一員として活動してきました。



4階まで津波が襲い多くの患者や職員が犠牲になった公立志津川病院。



志津川の街は津波で跡形もなくなった。残りはがれきの山のみ。ビルの屋上にもがれきが残る。



避難所の1つのベイサイドアリーナ。安否や支援の紙が貼られている。この中に医療統括本部が設置された。



ベイサイドアリーナ内にある薬局。持ち寄られた薬を薬剤師が管理した。



医療統括本部。志津川地区に入った医療チームをまとめ、全体の方針を決定する。左端が当院の伊東医師。



ベイサイドアリーナ内にある仮設の診察室。



ミーティング。派遣された医療チーム、保健所医師や保健師、精神科医、理学療法士などが今後の方針を話し合う。



熊本から来た自衛隊が設営した入浴施設。灯油を使ってお湯をわかしている。住民や支援に来た者が入浴する。



離れたところから見た志津川地区。津波は穏やかな波面からは想像できない。